

佳作

## 「生きる」ジュニア

青森県 八戸高等学校一年 堰合 瑞穂

何気なく私はテレビをつけました。すると、病気を持った方々の番組が放送されていたのです。少し気になったのでそのまま座ってその番組をみました。

番組に出てきたのは、ガンにおかされている少女でした。ある日突然足に痛みを訴え、骨のガンと宣告されました。抗ガン剤の投与などで、髪が抜け落ち、激しい痛みと闘う姿は、とても勇敢で、すごいなあ、と感じさせました。しば

らく治療を続けたことで、ガンは治り、学校へも行くことができるようになるとまで回復し、毎日の学校生活を楽しんでいました。

そんな彼女は、自分の闘病生活についてを書き、弁論大会に出場していました。その弁論の中に、私に深く考えさせるような、予想もしなかった言葉がでてきたのです。

「みなさんは、幸せって何だと思えますか。それは、地位でもお金でもない、」今、生き

ている『』ということなんです。」

この言葉を聞いた瞬間、私の目に涙が浮かびました。今まで考えたこともなかった、「幸せとは何か」という答えを、「生きていること」と堂々と胸を張って言える中学生なんてすごい、

と彼女に感動しました。彼女は、病気をして初めて、生きるということについて考えたそうである。私は、幸いなことに、大きな病気をしたことがありません。しかし、彼女の言葉から、生きていることって本当に素晴らしい、と素直に思うことができ、涙が止まりませんでした。

結局、彼女はガンが再発し、十四という短い生涯を閉じました。私は、この彼女の人生は

中身の濃いものであったらうと確信しています。病気を宣告されたときの絶望感に押しつぶされることなく、生きることを前向きに伝える姿勢、必ず治そうとするその希望は、決して無意味ではなかったはずです。

この番組をみた後、私自身も「生きる」ことについて考えてみました。

世の中には今、病気を持った人、障害を持った人、いろいろな人がいます。子どもでもお年寄りでも、それぞれの壁を乗り越えようとしています。その病気や障害を持っている人々は、とても前向きです。病気を絶対治す、目が見えなくても音を楽しむ、車いすでもスポーツがで

きる、などさまざまな希望を持って生きています。

また、世の中にはこういう人達もいます。むしろ、「こちらの方が多くでしょう。それは、「健康でいること」を当たり前のように思って生活している人、人生において一番大切なものは「お金」と思いこんでいる人、です。私は、世界中の人に、「生きていることが一番幸せなこと」という中学生の彼女の思いを知ってもらえたらいいと思います。生きていることが一番幸せであることを認識した上で、希望、夢を持たず、その人の人生は今までとは少し違ってくるかもしれない。もし、自ら生命を絶とうとしたら、本当に、テレビを通じてすばらしいことを学ぶことができました。しかも人間にとつて一番大切なことであるのに、年下の少女から教わるとは、思ってもみないことでした。これから先の人生の中で、今までに経験したことのない困難が待ち受けているかもしれない。そんなときは、絶対諦めることなく、希望をしっかりと持っていきたいと思います。もう一度、「幸せとは、地位でもお金でもない、今生きているということ、そして、「私は生かしてもらっている」ということ」を心のどこかで思い出し、精一杯生きたいと思います。

ている人がいるのなら、自分は幸せ者であり、どんな希望でもかなうのではないかと前向きに考え、生きていることについて深く考えてほしいです。

あと一つ、私はみんなにぜひ実行してほしいことがあります。それは生きていることを幸せに思うこと他に、「感謝の心を持つ」ということです。生きていることがすばらしいことはいえ、人間は一人で生きることができません。つまり、人間は「生かしてもらっている」ということです。人間は動物や魚などの生命をいただいています。だから、食べ物にも感謝すべきだと思います。

